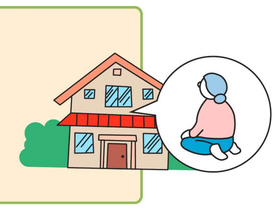
兵庫で、生きる

高齢者の住まい方

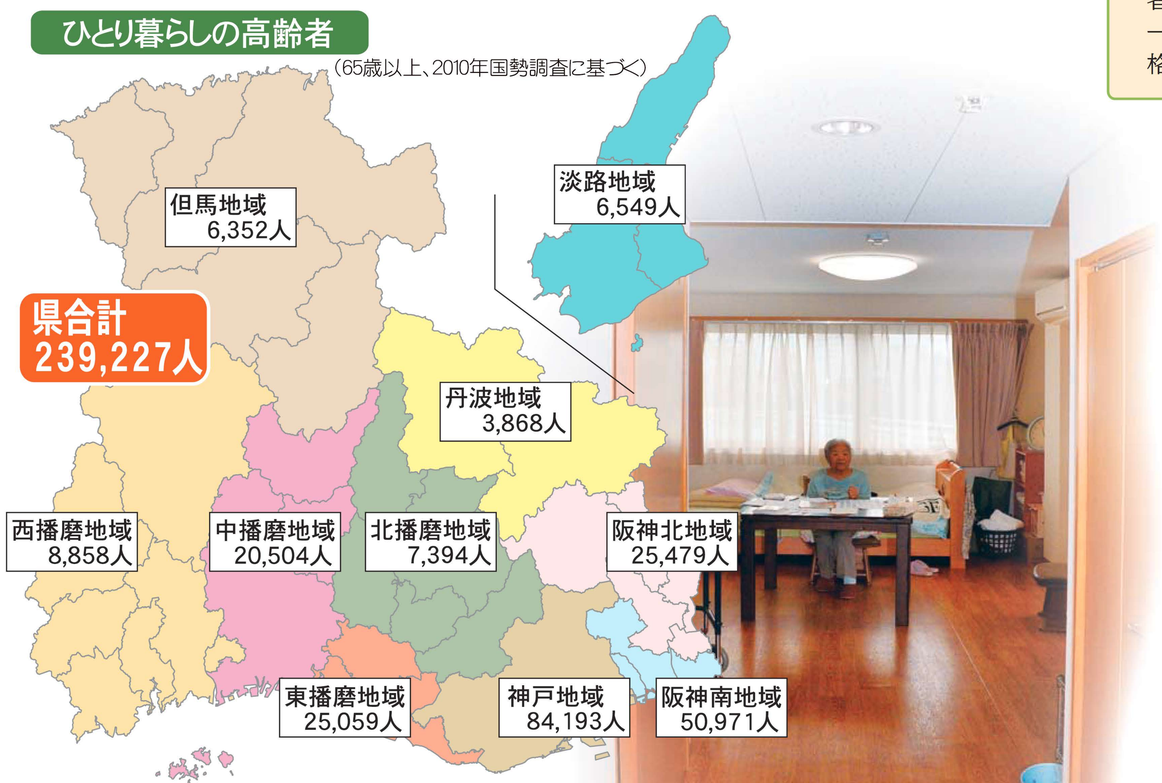
「ついのすみか」が多様化している。介護や医療の色彩が強い「施設」から、高齢者が安心して暮らせる「住宅」へと転換。一方で、費用やサービスの違いによる生活格差の拡大やトラブルも懸念される。団塊の世代が後期高齢者に突入する10年後、兵庫県内の75歳以上は100万人に達する見込み。人生の集大成をどこで、どう過ごすのか。兵庫の現状から課題を探った。

（岡西篤志）



ひとり暮らしの高齢者

（65歳以上、2010年国勢調査に基づく）



「ついのすみか」多様化

高齢者向け住まいの一覧・特徴例

2015年4月1日現在（サービス付きのみ8月31日現在）

※重度要介護者は、特定施設入居者生活介護の指定を受けた施設での利用となる。

介護保険施設 / 高齢者住宅	特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	介護療養型医療施設	養護老人ホーム
施設数	382	168	45	42
定員	23,633人	14,782人	2,150人	2,784人
介護度別の利用対象	要介護３以上（原則）	要介護１以上	要介護１以上	健常～要介護５※
主な利用対象状態（認知症を含む）	重度	中・重度	中・重度	健常・軽度
価格（目安）	低～中	低～中	低～中	低～中

兵庫県内の施設数 1,548施設 定員 77,290人

	軽費老人ホーム	有料老人ホーム	サービス付き高齢者向け住宅	認知症高齢者グループホーム
施設数	103	191	259	358
定員	4,268人	14,204人	9,372人	6,097人
介護度別の利用対象	健常～要介護５※	健常～要介護５※	健常～要介護５※	要介護１以上
主な利用対象状態（認知症を含む）	健常・軽度	健常～中度（認知症は軽度）	健常～中度（認知症は軽度）	軽度・中度
価格（目安）	低～中	中～高	中～高	中～高

介護度、費用などで8種類

兵庫県によると、自宅に住めなくなった高齢者が移る場所は主に8種類。介護保険施設と、高齢者住宅に大きく分けられる＝図。

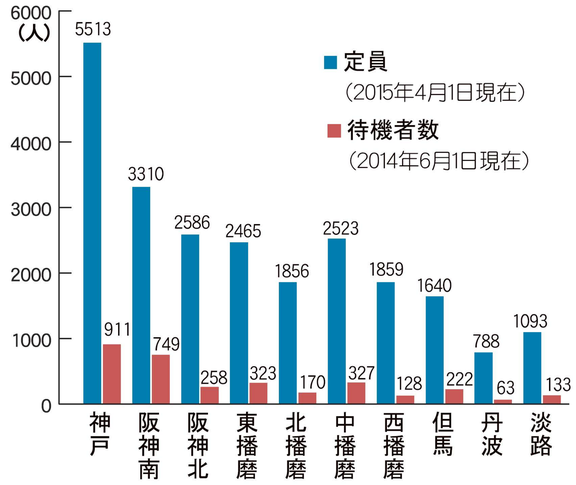
高齢化のスピードが増す中、施設の建設が追いつかないこともあり、「住宅」の位置づけがより重視されるようになっている。

「介護付き」などが選べる有料老人ホームは15年間で8倍に増加。ただ、入居時に1億円以上の権利金が必要なケースなど、負担が高くなる傾向にある。

賃貸住まいの高齢者の受け皿として急増しているのが、サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）。介護が必要な人でも1人で入居できるが、どの程度の手助けが受けられるかは事業者により、その分費用も高くなる。

神戸学院大の備酒（びしゅ）伸彦教授（高齢者ケア）は、金額に関わらず、サービスの質に格差が生じていると指摘。「選ぶ際に、住んでいる人から話を聞けるかどうかは見極めに役立つ。また食事の内容は事業者の考え方が如実に表れる。他との比較や費用とのバランスなど、参考にしてほしい」と指摘している。

特別養護老人ホームの定員と待機者数



特養は不足 待機3300人

食事や入浴、排せつといった手厚い介護を少ない負担で受けられる特別養護老人ホームの人気は依然高く、入居待ちの状態が続いている。

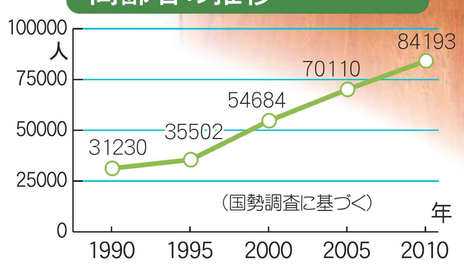
厚生労働省の2015年3月の調査では全国で入居を希望している高齢者は約52万人。これは、医療機関や介護老人保健施設などにいる人も含めた数字で、兵庫県では約2万6千人となる。

一方、県がより現実的に「待機者」としているのは、施設などを除く在宅の要介護度3以上で、3288人（14年6月時点）。県民局、県民センター別では、神戸の911人が最多で、丹波が63人と最も少ない。

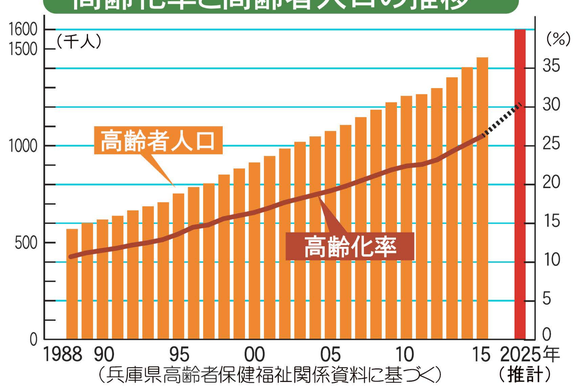
県によると、2025年度末までに約1万3千人分の不足が見込まれる。

このうち8千人分は特養を新設。5千人分は、サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）の入居や24時間態勢の訪問介護・看護で、それぞれ対応するとしている。

神戸市内の1人暮らしの高齢者の推移



高齢化率と高齢者人口の推移



65歳以上 増加の一途

兵庫県の高齢者（65歳以上）の人口は2003年に100万人を超え、総人口が09年を境に減少に転じた後も増加を続けている。

県の調べによると、今年2月1日時点の高齢者人口は約145万5千人で、高齢化率は26・3％。

高齢化率を市町別でみると、最も高いのは香美町で37・3％。佐用町の37・0％、新温泉町の36・9％が続く。一方、低いのは順に、三田市（19・7％）▽西宮市（21・9％）▽伊丹市（23・6％）。

県は25年には約160万人になり、高齢化率は30・4％と想定している。

見守りサービス充実が不可欠

有料老人ホームなど高齢者住宅に住むお年寄りを「在宅」に含めた場合、兵庫県内の在宅高齢者数は142万3807人（2015年3月末現在）となり、高齢者全体のうち97・5％を占める。

また、10年の国勢調査に基づき、在宅の1人暮らし高齢者の割合をみると18・7％。

県民局、県民センター管内別では、北播磨（10・3％）や但馬（11・6％）が低いのに対し、神戸（23・8％）や阪神南（23・2％）の都市部で高い。

慣れ親しんだ地域で暮らす高齢者を支えるため、国は12年度、24時間対応で自宅を訪れて介護・看護する取り組みを介護サービスとして導入した。

県も13年度、特別養護老人ホームの職員が地域の在宅高齢者を24時間態勢で見守るサービスを始めた。

全国初の取り組みで、専用の携帯電話を高齢者に持ってもらうなどし、緊急通報があれば職員らが駆けつけたり、相談に乗ったりする仕組み。県内44施設が取り組んでいる。

◆この特集は、兵庫県内各地を記者が訪ねるルポ連載シリーズ「兵庫で、生きる」と連動しています（**社会面参照**）。神戸新聞NEXTにもデータ詳報を掲載します。次回は11月中旬の予定です。ご意見・ご感想を報道部特報班までお寄せください。ファクス078・360・5501。メールはtokuhou@kobe-np.co.jp